

キリスト教保育

年主題

共に喜んで

～すべての歩みの中～

子どもの礼拝
木村章子

クリスマスの前の月
沖繩の空を考える
みんなで考える
緑ヶ丘保育園の実践より

礼拝のお話
飯塚拓也



2021 NOV

11

主はその宝の蔵である天をあなたのために開いて、雨を季節にしたがってあなたの地に降らせ、あなたの手のすべてのわざを祝福されるであろう。

口語訳聖書・申命記28章12

豊かな実りの季節になりました。この季節にまず心に浮かぶのは、「収穫感謝日」です。これをどんなふうに保育の中に取り入れていくかを考えさせられます。

収穫は、直接人間の生活に関わることでですから、収穫感謝の行事は、人類の歴史と共に古い習慣です。日本の教会では、11月の第4日曜日に「収穫感謝祭」として祝われることが多いのですが、これは、アメリカの清教徒の習慣を受け継いでいるものなのです。

教会と密接な関係の中で発展した日本の幼稚園、保育園にも「収穫感謝祭」が取り入れられるようになりました。『日本キリスト教保育百年史』にも、「収穫感謝祭」を取り入れた保育のことが、紹介されています。神と自然と人間の関係を子どもに気づかせることは、キリスト教保育の大切な課題となっていました。

自然は、神の創造による被造物であり、これとその生命力を偶像として拝むことは許されていませんが、人間の生活にとって、無くてはならぬものであること、そして、神の恵みとして私たちに与えられていることを知らせ、神への賛美と感謝の思いを呼び覚ますことは宗教教育の大切な一面でしょう。

今月の聖句は、雨や季節、大地や実りを、主の賜わる祝福として捉え、主に感謝し、主に従うものには、これらのものを豊かに与えられると信じております。「収穫感謝祭」の行事が、このような信仰にまで遡るものであることはいうまでもありません。

年々、自然が失われていく都市化の時代です。残された自然のなかに、神の恵みと祝福を見だし、肌でそれを経験し、それらを友と分かち合う喜びを経験することは、現代の子どもにとり、ことに大切なことと思います。今年も、豊かで祝福された感謝祭が繰り上げられますように。

岡本不二夫・執筆 当時・日本キリスト教団平塚教会牧師 附属平塚二葉幼稚園園長
1986年『キリスト教保育』誌 11月号より

キリスト教保育

第632号11月号



年主題

共に喜んで

～すべての歩みの中～



幼子とともにキリストへ

目次

〈巻頭言〉

私にとつての「伝統の継承」 花崎杜季女

〈論説〉

愛と配慮を必要とする者たちの存在

によつて世界は保たれる(2) 佐治由美子

〈小論〉

ごっこ遊びを考える 前田和代

聖書にきく・お話 後宮 敬爾

【カリキュラム】

11月 月のねがい表

心にとめて 鈴木直江

0・1・2歳児 緑ヶ丘保育園

実践からの学び 矢野キエ

心にとめて 八木陽子

3・4・5歳児 江戸川双葉幼稚園

実践からの学び 野中麻衣

子どもの礼拝 木村章子

〈連載〉 保育者する人々への

12のエール 石丸 昌彦

〈連載〉 音楽つて、すごい!

楽器つて、すてき! 桃原和子

目福 口福 耳福 中野富美子

図書紹介 沼田祐子 萩生田光子

礼拝のお話 飯塚拓也

風 山中正雄／編集子 赤木敏之

連盟だより

表紙絵 カット 田中楨子

長野祥三 長縄えいこ
中畝治子 松成真理子

金井ユリ



43 42 36 34 31 24 22 21 18 14 6 4 3 2

62 61 51 50 49 46 44